

# 市役所って

上田市政  
3年目

## 皆さんに「成果を実感してもらおう年」を目指します!

今月の特集は、連載企画「何やってるの!?市役所って」のスペシャル版。平成17年度予算の概要を中心にお届けします。おなじみの「まーくん」と「はかせ」は、3年目を迎える上田市政をより深く理解することができるでしょうか。



17年度予算に関するお問い合わせは財政部 ☎211-2216へ

### 誌上インタビュー

#### 上田市長に聞く 平成17年度予算 のポイント

市長＝上田市長  
まー＝まーくん  
は＝はかせ



#### 3つの重点項目

- 地域でのまちづくり活動の推進
- 子ども関連施策の充実
- 高齢者や障がいのある方の社会参加の促進

は：予算の内容を決めるのに心掛けたことは？  
市長：基本方針は、「伸ばすべきものは伸ばし、変えるべきものは思い切って変える」。右の三つの重点項目を中心に、限られた財源をどう有効に使うのか、市役所一丸となって真剣に議論したんですよ。

まー：努力した点は？  
市長：今年も、市役所の仕事を一つひとつ根本から点検しました。その結果、事務の効率化や市民サービスの見直しなどにより、約百四十三億円の効果額を生み出すことができました。

まー：今年、具体的にどんな年にしたいですか？  
市長：十七年度は、市政運営の三大プランの一つである「新まちづくり計画」に基づく事業を着実に進めるとともに、「市民自治推進」市役所改革の両プランもより具体化していきます。私もいよいよ任期の三年目。皆さんに取り組みの成果を実感してもらおう年にしたいですね。

まー：予算って言えば、昨日パパが「そろそろ車を買いたいね」と言ったら、ママは「今年はお給料が上がらないのに、まーくんの英語教室の月謝は上がるし、家計的に厳しい!」ときっぱり!  
市長：市もそんな感じですか？  
市長：基本的には。なぜ厳しいのかを説明すると、市内の景気がなかなか上向かないこともあり、ここ何年も市税などの市の裁量で使える収入は伸びていません。  
一方、生活保護や国民健康保険を支える経費など、市として欠かすことができない支出は増え続けています。  
まー：使えるお金が減っているのに、みんなの暮らしを支えるお金はどんどん膨らんでいるんですね。  
市長：そのため、市が自由に使えるお金の割り合いはどんどん小さくなっています。

◇ ◇ ◇

# 平成17年度の一般会計予算は7,935億円。前年比2.4%減



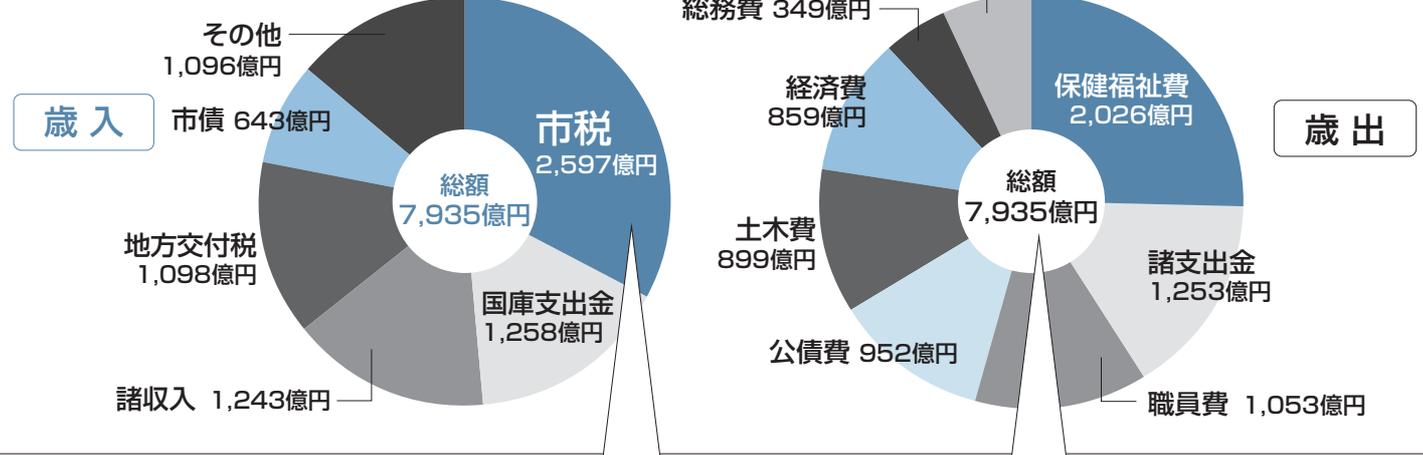
■札幌市全体の  
17年度予算  
1兆5,553億円

**一般会計**  
(福祉や教育など行政運営の基本的な会計)  
**7,935億円**

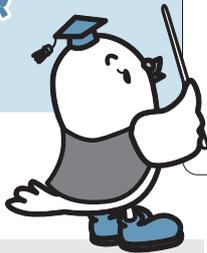
**特別会計**  
(介護保険や国民健康保険など特定事業の会計)  
4,554億円

**企業会計**  
(病院や交通などの会計)  
3,064億円

## ■一般会計予算の概要



## 市のサービスと皆さんの市税負担の「金額」、実感できますか



■市民1人当たりの市税の負担  
**138,864円/年**

- 固定資産税 (57,087円)
- 個人市民税 (39,620円)
- 法人市民税 (15,984円)
- 都市計画税 (12,167円)
- たばこ税 (7,721円)
- その他 (6,285円)

■市民1人当たりのサービスに係る費用  
**424,291円/年**

- 福祉・保健・医療など…………… (120,475円)
- 道路・公園の整備など…………… (74,863円)
- 下水道・地下鉄などへの繰出金 (67,061円)
- 産業振興・観光・農務など …… (48,244円)
- 区役所やスポーツ施設の運営管理など …………… (36,260円)
- その他 …………… (77,388円)

## 市の財政は破綻する？

地方自治体では、国から「財政再建団体」として指定されることが、民間企業でいう倒産状態に当たります。この場合、国の管理の下で財政再建に取り組むことになり、市独自の施策が行えなくなるなど、市の自主性・自律性が損なわれます。また、サービス水準の大幅な引き下げや、使用料・手数料の大幅な引き上げなどにより、市民生活に大きな影響が出ることが予想されます。

### ひとロメモ「財政再建団体」になるとき

市町村の場合、普通会計（各自治体を統一的な基準で整理し比較できるようにした統計上の会計区分）決算上の赤字の割合が、標準財政規模（市税収入に地方交付税などを加えた額）の20%以上になると、財政再建団体に指定される可能性があります。札幌市では、約800億円の赤字が発生した場合が該当します。

収入がどんどん減る一方、義務的な支出は膨らみ続ける。そうした中、できるだけ後の世代に借金を残さないためには、我慢すべきところはいくらもありません。我慢しなければならぬ。そうした理解が得られるよう、市民にはしっかりと説明していく責任を感じています。



「どれくらい」とは明確に言えませんが、中期的には、毎年二百億円から五百億円の規模で歳入が不足する見込みです。そうなると、現状の行政サービスの水準を維持していくのは著しく困難になるでしょう。今さえ乗り切れば何とかなる、そうした状況ではないことだけは間違いなく、一度、我慢の限界、つまり本当に立ち行かなくなったときのことを考えてみる必要があるのかもしれません。

1 誌上レポート  
**予算案発表の記者会見**

2月1日の予算案発表の記者会見では、厳しさを増す財政状況について、市政記者から上田市長に鋭い質問が投げ掛けられました。

我慢の時代というのは、どれくらい続くのでしょうか。

次のページでは、17年度の具体的な事業を紹介します。